令和4年度千葉市緑化推進協議会

園 芸 講 習 会 報 告

開催日時：令和4年10月22日(土)、14:00～15:30
開催場所：千葉市中央コミュニティセンター5階「多目的室」
参 加 者 ：9会員24名(役員含む)　　参加費：1,000円／人
講　　師 ：ものづくりマイスター 川西 正人 氏 (アシスタント：川西 祐子 氏)、役員2名サポート
テ ー マ ：小さな自然の世界　苔テラリウムづくり

一昨年まで園芸講習会は寄せ植え、昨年「苔玉づくり」、今年は「苔テラリウムづくり」にチャレンジしました。
ご参考(昨年の園芸講習会報告)　←クリック→　ご参考(一昨年の園芸講習会報告)

1. 準備など

・瓶、苔(3種類)、ゼオライト、飾り石類、ミズゴケ、培養土、フィギアなど

スギゴケ

シノブゴケ

コツボゴケ

講習会の様子

講習会場入口(多目的室)

今回使った苔は、背の高い順から以下の3種類
・スギゴケ　：日向から半日陰に対応可能ですが、高い湿度や強い日差しには適さない。
・シノブゴケ　：ハイゴケ科の苔で、少々の日の光が必要、乾燥に強いが風当りに弱い。
・コツボゴケ　：主にテラリウムむき！高温で密閉状態にすると蒸れて変色やカビの発生原因になる。

2. 作成手順

作る前に先ずはテーマを決める
完成した状態をイメージして、立体感がでるよう配置計画を練ります。
森の中に流れる沢をイメージした例 →

1）底にゼオライトを敷く（根腐れ予防）
多すぎた水を適度に吸収したり、乾燥を防ぐために必要なものです。

2）次に飾り石をひく　色を変えて積み上げるとキレイになります。
材料を替えて地層の様に複数の層を配置するのも面白い趣向です。
なお、水面をイメージしたければ水色ガラスを少し配置します。
その際は印象を際立たせるために、アルミホイルを敷くと良いでしょう。

3）水苔をのせる　砂利と培養土が混じらない様にする為です。

4）培養土を入れる、
ここで傾斜をつけたり山にしたりして景観をイメージして入れます。
コケが活着するために、市販の消毒済み極小粒の砂利、
土を敷きます。 その上から水を掛け、適度に湿らせます。

5）いよいよ苔を差し込む大きい物から順に植えてゆく
コケの種類は高い順から、スギゴケ、シノブゴケ、コツボゴケです。
適当な大きさにカットして、割り箸、ピンセットを使って植え付けます。
スギゴケは長過ぎる場合、下の方をカットし好みの高さにします。
うまく配置すれば立体感がでます。

6）次にテーマに合ったフィギュアなどを置き形を整える
貝殻、小物を工夫しても良いでしょう。

7）最後に霧吹きなどで水をかける
汚れたガラスをティッシュペーパー綿棒などで
汚れを落とします。

日頃のお手入れ
テラリウムは半日陰、柔らかい間接光の元に置いてください。
通常は瓶の蓋をしておきますが、時々換気してください。
乾燥しているようであれば、霧吹きで水をあげてください。
壁面のガラスにできる水滴は、綿棒等で拭き取ってください。
スギゴケは生長しすぎたら上の部分をカットしても問題ありません。

参加された皆さんの作品　→

皆さんが作り終えた後、お互いの作品を観賞する時間と質疑の時間を設けました。

問合先：千葉市緑化推進協議会事務局（みつとみ）
TEL.090-6517-8555　　Email:c.ryokkasuisin@gmail.com